プが施工

が「良いコンクリート構変化に対応できるように

クリートに求められる性しているだけであり、施

までと同じことをしてい

てはこれまでと同じ品質

の構造物を造れなくな

トシステム」の概要など

を紹介した。

少に伴う運搬の長時間化 体的には、①工場数の減

この後、犬飼利嗣部会

が「良いコンクリート構

生コンの運搬距離が長 高速道路のコンクリート ギとなっている」 造物」との考えを述べ、 しておくことが施工のカ 起因すると説明。 部材断面が大きく、配筋 ことと、構造物の規模や は山間部での施工が多い 構造物の施工に伴う問題 も過密となることに多く 山間部の現場までは

ースが多いと説明した。 りわけ暑中コンクリート 状況をみると、大半が豆

性の低下への対策」と

足などの状況から、今後 化③建設現場の労働者不

の生コン施工では「流動

り良い生コン」について 造物を施工するためのよ

欠陥に起因しており、と 概念がなく、施工者と製 者の連携や協議、情報共 ンクリート構造物の劣化 板やかぶり不足など初期 『ワーカビリティー』の れる取り組みをあげ、両 ②暑中期の長期化・酷暑 一方で、高速道路のコー』はすべてに共通して多い」と指摘。 だ、『ワーカビリティ とは乖離していることも能は多種多様となる。た 工者が望むコンクリート がっているのが現状では IS A5308には コン製造者に今後求めら 必要な性能。しかし、J そのうえで施工者と生 造者の意識のずれにつな 有のほかに、施工者には 可欠であるという考え方

社会の変化に対応を

JIS規定は「最低限」

とくに建築分野ではコン 必要最低限の品質を満足 ので一概には言えない。 「JISコンはあくまで

うに申し上げるが、私は の調合にも対応できるよ 足するためにはJIS外 望んだコンクリートが納 うにし、 「JIS A5 は望まれている性能を満 い)」ことを求めた。 伝えなければわからなコン工場に対してスラン 排除する(生コン工場に 入されるという考え方は 308の規定を満足して 他方、生コン製造者に う。 用」が必須になるとい

生コン業界を取り巻く環 話題提供した桜井氏は、 境の変化に触れ、「これ りするよう期待し、「時 要な意味を持つ「骨材粒 度の安定化」について説 安定化において極めて重 兼亨氏は、生コン品質の であってほしい」とし 変わり続ける生コン業界 先して取り入れるなど、 代に対応し、新技術を率 最後に話題提供した吉

JC-名古屋大会2021・生コンセミナー報告(中)

同氏は「誤解のないよ

葉にアレンジを加え、 ラントと連携・情報共有 工する対象でとに異なる のおかげだ」としつつ、大学名誉教授の有名な言 ることが多い。生コンブ いコンクリートかは、施 調達できるのは、これら大学名誉教授の有名な言 ることが多い。生コンブ いコンクリートかは、施 調達できるのは、これら大学名誉教授の有名な言 ることが多い。生コンブ いコンクリートかは、施 調達できるのは、これら、ちの「意識」に注目するの る。地方でも一定以上の話題を提供した。 施工者と生コン製造者 制度を高く評価してい者の立場から、それぞれ く、交通状況の影響も受 施工者と生コン製造者 制度を高く評価してい

コン工場の品質管理監査 JIS A5308や生

一を排除する」ことなどを 土木分野の施工者から れば良いという考え方 技術を積極的に活用した 標準化したり、デジタル プフロー管理の生コンを とうした状況から、生

会(JCI)の年次大会 ・建設本部専門主幹〈橋 の生コンセミナーでは十 楽担当〉)が事業者の立場 日本コンクリート工学 氏(中日本高速道路技術 専門役建築技術グルー 中工務店大阪本店技術部 から、②岩清水隆氏(竹

講演に続いて、①上東泰 ト研究会代表による基調 河茂幸近未来コンクリー

ちし、環境に優しい」のて、交通状況などの環境 「丈夫で、美しく、長持して適切な運搬計画を立

導入した「ニュープラン きる粒度分離防止装置を 明し、低コストで設置で